

Asia Indicators

発表日: 2021年12月10日(金)

台湾、11月の輸出額は過去最高を更新(Asia Weekly(12/6~12/10))

～経済活動の正常化の動きを反映して輸出入ともに底入れの動きが続いている～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/7(火)	(フィリピン)11月消費者物価(前年比)	+4.2%	+3.9%	+4.6%
	(豪州)金融政策委員会(政策金利)	0.10%	0.10%	0.10%
	(台湾)11月消費者物価(前年比)	+2.84%	+2.55%	+2.54%
	11月輸出(前年比)	+30.2%	+23.1%	+24.6%
	11月輸入(前年比)	+33.8%	+25.5%	+37.2%
	(中国)11月輸出(前年比)	+22.0%	+19.0%	+27.1%
	11月輸入(前年比)	+31.7%	+19.8%	+20.6%
12/8(水)	(インド)金融政策委員会(レポ金利)	4.00%	4.00%	4.00%
	(現金準備率)	4.00%	4.00%	4.00%
12/9(木)	(中国)11月消費者物価(前年比)	+2.3%	+2.5%	+1.5%
	11月生産者物価(前年比)	+12.9%	+12.4%	+13.5%
12/10(金)	(フィリピン)10月輸出(前年比)	+2.0%	--	+6.4%
	10月輸入(前年比)	+25.1%	--	+24.9%
	(マレーシア)10月鉱工業生産(前年比)	+5.5%	+3.8%	+2.5%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]～生活必需品を中心にインフレが続くなか、世界経済の回復を追い風に輸出入はともに底入れが続く～

7日に発表された11月の消費者物価は前年同月比+2.84%となり、前月(同+2.54%)から加速して2013年2月以来となる高い伸びとなっている。前月比も+0.56%と前月(同▲0.06%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、国際原油価格の上昇を反映してエネルギー価格が上昇圧力を強めているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇するなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.49%と前月(同+1.40%)から加速しているものの、引き続き低い水準で推移している。前月比も+0.10%と前月(同+0.43%)から上昇ペースが鈍化しており、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染一服を受けた行動制限の緩和の動きを反映してサービス物価に押し上げ圧力が掛かる動きがみられる一方、エネルギー価格の上昇に伴い輸送コストに押し上げ圧力が掛かっているにも拘らず、財価格に下押し圧力が掛かっていることがインフレ圧力を相殺している。

また、同日に発表された11月の輸出額は前年同月比+30.2%となり、前月(同+24.6%)から伸びが

加速した。前月比も+4.2%と前月（同+1.7%）から5ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めており、単月ベースの輸出額は過去最高を更新している。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連、プラスチックやゴムなど素材関連や化学製品関連など幅広い分野で底入れの動きがみられるほか、国際商品市況の上昇の動きを反映して鉱物資源関連の輸出額も押し上げられている。国・地域別でも、日本向けや欧州向けが頭打ちする動きがみられるものの、最大の輸出相手である中国本土向けや米国などを中心に堅調な動きが続いているほか、アジア新興国向けの底堅さも輸出を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比+33.8%となり、前月（同+37.2%）から伸びが鈍化した。ただし、前月比は+6.7%と前月（同+2.3%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど、輸出同様に底入れの動きを強めている。国際商品市況の上昇の動きは鉱物資源関連の輸入額を押し上げているほか、輸出の堅調さを反映して素材及び部材関連などの需要を下支えするなど、幅広く輸入は底入れの動きをみせている。結果、貿易収支は+57.12億ドルと前月（+61.22億ドル）から黒字幅が縮小している。

図1 TW インフレ率の推移

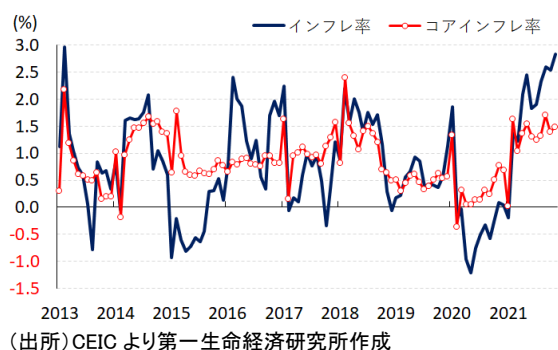
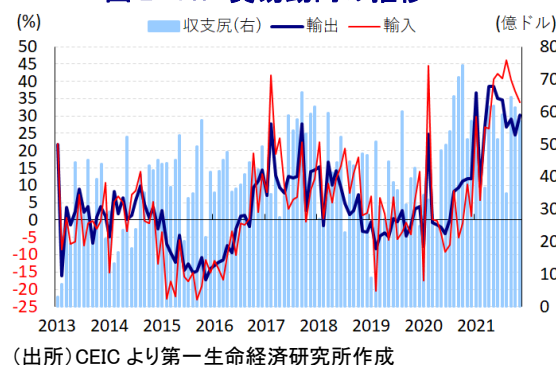


図2 TW 貿易動向の推移



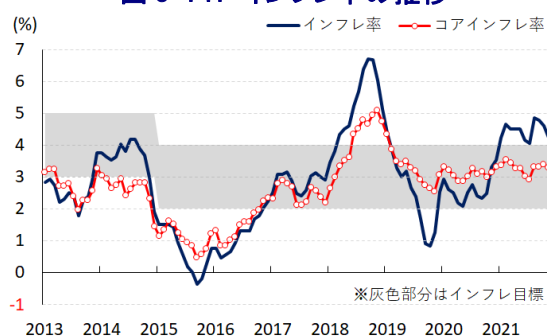
【フィリピン】～生活必需品を中心にインフレ圧力が強まるなか、インフレ率は11ヶ月連続で目標越えで推移～

7日に発表された11月の消費者物価は前年同月比+4.2%となり、前月（同+4.6%）から鈍化したものの、11ヶ月連続で中銀の定めるインフレ目標（2～4%）を上回る推移が続いている。ただし、前月比は+0.69%と前月（同+0.15%）から上昇ペースは加速しており、国際原油価格の上昇の動きを反映してエネルギー価格は上昇ペースを強めているほか、生鮮品を中心とする食料品価格も上昇するなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.30%とインフレ目標の範囲内に収まる推移が続いている上、前月（同+3.40%）から伸びも鈍化している。ただし、前月比は+0.39%と前月（同+0.16%）から上昇ペースは加速しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れの動きを反映して消費財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染一服を受けた行動制限緩和を受けてサービス物価にも押し上げ圧力が掛かるなど、幅広くインフレ圧力が強まる動きがみられる。

10日に発表された10月の輸出額は前年同月比+2.0%となり、前月（同+6.4%）から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの様相を強めている。財別では、主力の輸出財である電子部品関連や電気機

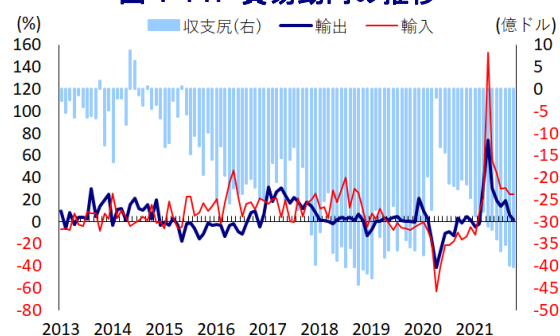
械関連のほか、農産品関連の輸出額も鈍化するなど幅広い分野で頭打ちの動きがみられる。国・地域別では、ASEAN（東南アジア諸国連合）諸国など周辺国向けに底堅さがみられる一方、最大の輸出相手である中国向けのほか、米国や日本向けの減少が輸出全体の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比+25.1%と前月（同+24.9%）からわずかながら伸びが加速している。ただし、前月比は3ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移しており、頭打ちする輸出とは対照的な動きをみせている。国際商品市況の上昇の動きは輸入額を押し上げているものの、電気機械関連などの輸入額の鈍化の動きが足かせとなっている。結果、貿易収支は▲40.17億ドルと前月（▲39.95億ドル）からわずかに赤字幅が拡大している。

図3 PH インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図4 PH 貿易動向の推移

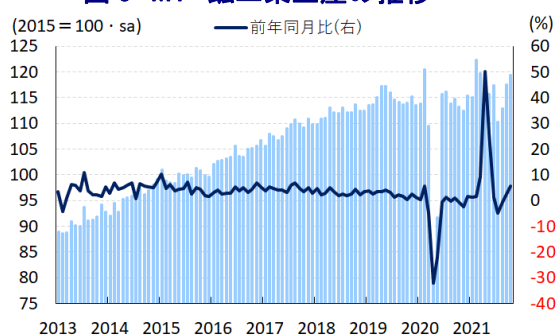


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～感染一服による行動制限緩和に加え、世界経済の回復の動きも追い風に生産活動は底入れ～

10日に発表された10月の鉱工業生産は前年同月比+5.5%となり、前月（同+2.5%）から伸びが加速した。前月比も+1.66%と前月（同+4.08%）から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底打ちしている。鉱業部門の生産は弱含む展開が続いている一方、製造業における生産拡大の動きが全体を押し上げているほか、発電量も拡大傾向を強めるなど幅広い経済活動の底入れが進んでいる様子が見え始める。新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染一服を受けた行動制限の緩和の動きに加え、主要国を中心とする世界経済の回復の動きも追い風に、主力の輸出財である電子部品関連や電気機械関連などを中心に生産活動が底入れしていることが影響している。

図5 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。